

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400227
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	グループホーム 夏みかん
所在地	愛媛県八幡浜市八代 4 5 番地
自己評価作成日	平成22年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>不安なく安心して生活して頂けるよう、健康面等での看護師、Dr、ご家族との連携ができています。又、緑豊かな環境の中で、自然の恵みを五感で感じながら生活でき、隣の保育所との交流も盛んにあり、日頃見ることがない満面の笑みが見られ穏やかに生活されています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、利用者に「便りを出したい人」の希望を聞きながら、年2回、写真付きの年賀状や暑中見舞いのはがきを出せるよう支援されている。ご自分で書きにくいような利用者には、職員がご本人の気持ち等を聞きながら代筆されている。お孫さんから毎月、はがきが届く方は、ご自分で読んで居室にファイルされ、ご家族にも見ていただけるようにされている。時には、お返事を出されることもある。</p> <p>事業所独自で利用者個々に、1年間の状態を一覧できるようなアセスメント表を作成されており、職員は、アセスメント表を見ながら個々の思いや意向を掴み、ケアに活かすようにされている。アセスメント表には言動、思い、食事、排泄、移動、入浴、活動、睡眠、医療の項目があり、利用者の変化等も分かるようになっている。</p> <p>事業所では3ヶ月間、業者から食材を取ることを試みておられたが、冷凍の食材が多く、利用者から「おいしくない」との声が多くあり、10月より新鮮な食材を使った食事作りができるようにされている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目		取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

二宮 美菜子

評価完了日

平成 22年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 地域社会との関わりの意義を組み入れた理念としている。 ホーム内2箇所に大きく掲示し、日々意識しながら個人のペースに合わせ、その人らしく生活できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所の「認知症であっても、地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」の理念のもと、利用者の地域での暮らしを支援できるよう、積極的に散歩や近くのAコープに買い物に出かけ、日常的に地域社会とかかわることができるよう取り組まれている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 今年は7月の八代地区夜市にちらし寿司を出店し、体調の安定している入居者さんは夜市に参加された。(気温が暑すぎて長居はできず、販売には参加できなかった) 近所のスーパーへ買い物に行く機会をつくり、知り合いに会ってうれしそうに話をされることもあった。</p> <p>(外部評価) 職員は「みかんが熟れだしたから見に行こう」と散歩に誘ったり、Aコープで買い物をしていると、出会った方から「おばちゃん頑張ろうね」と声を掛けてもらうこともある。法人のイベントに参加して、地域の人達と交流されたり、9月に行われた校区の防災フェスティバルには、管理者が参加され、地域の方達と防災意識を深められた。福祉体験学習に中学生が来られた時には、利用者が「しっかりと勉強しなさいね」とあたたかく声をかけられたようだ。管理者は「事業所側から積極的に地域にとけ込んで行きたい」と話しておられた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で、日常生活の様子や認知症への理解を深めていけるよう努めているが、地域への貢献にはつながっていない。年に1~2回、地元の中学生の福祉体験学習を受け入れている。 今後、ホーム行事の際に、地域の方々の参加も呼び掛けていったら良いのではないかと職員からの声もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>昨年度は計4回しか開催できなかったが、地域の方々からの 防災に関するアドバイスや地域行事の情報、ホームからの質 問に関する返答をすぐ頂いたりして、良い意見交換の場にな っている。 評価への取組み状況についての話し合いはできておらず、 今後取組みが必要。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議では、事業所の防火管理体制について説明をされたり、 地域の方々から防災組織について情報をいただいた。 「地区の独居老人に災害時の担当を決め、有事には安否確 認をすぐ行えるようにしている。ホームも、防災会議に参加 して、その体制を活用してはどうか」と提案をいただき、事 業所も地域の防災訓練に参加させてもらえるようお願いされ た。</p>	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>およそ2ヶ月に1回開催される八幡浜市GH連絡会議に参加 している。 9月は司会担当であったため、事故やヒヤリハットの報告に ついて、いろいろな意見交換ができ、今後のホームでの安全 対策に活用していきたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市内のグループホームが集まる連絡会議は、事業所が順番 で担当するようになっており、市の担当者と相談して議題を 決め、勉強や意見交換等がされている。毎月、介護相談員 の訪問があり、利用者の思いを聞いてくださっており「こ こは、ようしてもらえ」「ドライブに行きたい」等、利用者個 々の思いを事業所に伝えてくださっている。</p>	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>日中は常に玄関の施錠はせず、自由に出入りができるように している。 法人の高齢者ケアセンター全体で定期的に行っている勉強 会で身体拘束についての内容を組み込んで、現場職員が順 番に参加できるようにしている。身体拘束廃止マニュアルも 作成し、いつでもみれる場所に置いている</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、玄関は開放されていた。職員は、法人内の研 修に参加し、身体拘束について勉強され、実践に取り組んで おられる。管理者は「職員の利用者に対する声のかけ方」に も気を付けるよう、職員に話しておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴時や更衣時に身体状況を確認し、痣や傷があった場合は申し送りで情報を共有し、虐待によるものではないかも含め原因を探している。 法人の高齢者ケアセンター全体で行っている勉強会でも虐待防止法についての内容を組み込み、職員が順番に参加できるようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) それぞれの事業や制度について十分な知識を持っておらず、活用できていない。今後、資料や情報を集めて、まずは知識を持つことから始めたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、理解しやすいような言葉を使いながら、説明している。加算内容の変更時にも、毎回説明書を送付し、同意書をいただくようにしている。 ただ、現在では管理者のみが契約対応をしているため、内容について現場職員に聞かれた場合に答えられないことがある。今後、契約対応ができる職員を増やしたい。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者さんとは日常会話のなかで、意見や希望を聞けるよう職員から話しかけるようにしている。 ご家族からは、面会時に状態報告を行ったり、ご家族の近況を伺ったりするなかで、意見を聞けるように心がけている。 月に1回、八幡浜市さわやか相談員の訪問があり、話をすることで思いを表せるよう働きかけている。 (外部評価) ご家族の来訪時、管理者は「遠慮なくご家族の声を聞かせてください」等、意見や要望を出していただけるよう声をかけておられる。ご家族へは、毎月、利用者個別に写真に一言メッセージを添え、又、次月の行事予定等も入れて、担当職員が手書きの便りを出しておられる。遠くに住まわれているご家族へは電話で意見や要望を聞き取るようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月1回スタッフ会を開いてその内容を記録に残し、参加できなかった職員もいつでも見れるようにしている。また希望がある場合はその都度管理者から上層部へ職員の声を届けて、すぐに返事をもらえる体制が整っている。しかし、返答に時間がかかったり、現場の思いが上層部にきちんと届きにくいこともある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員がスタッフルームで20～30分の休憩をとり、精神面も「ゆとりのあるケア」を行えるようにしたいと考え、法人の全グループホームの管理者で「職員の休憩時間と場所の確保」を提案された。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>資格取得者などは契約 準職員 正職員への登用制度も機能している。労働時間の変更についても常にベストな時間帯になるよう部署によって柔軟な変更や対応が出来る環境にある。今後、職員が安心して休憩時間をとれるような環境を整えていくよう努力している。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内で定期的に勉強会を行い個々の能力に応じた勉強会に参加出来ている。また、本人が参加希望する外部研修についても必要に応じ法人が費用を負担し、参加しやすいように取り組んでいる。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム連絡協議会に加入し他事業所との意見交換や情報交換を行っている。今年は、実践者研修に参加している職員も居り他事業所の方からいろいろな刺激を受け意欲的である。法人内のGHとも連絡や交流を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>可能な限り、入居前にご本人にお会いするようにしている。また、ご家族や医療情報課、入居前の担当ケアマネなどから生活全般の情報を収集して状況の把握に努め、本人の言動に注意しながら信頼関係を築く努力をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にホームの見学をして頂き、ご家族が求めているものを理解して、本人にどのような対応が出来るか話し合いをしている。また、紙面で説明を行い相談窓口をお伝えしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 生活歴や心身の状況を把握して最優先のサービスが何かを見つけ出すようにしている。必要があれば外部からのマッサージ等のサービスを取り入れることも考えている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんが中心になって羊羹と一緒に作り、他入居者や隣の託児所の子供たちに届けて喜んでもらっている。日常の作業は個々の能力に応じてしてもらっており、作業後は「ありがとう」と声をかけるよう心がけている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の行事は、月初めに必ずご家族にもお知らせしている。お知らせしておくことで、機会は少ないが、ご家族にも地域の夜市やその他の行事も参加していただいている。また、面会の時などに昔の情報などを聞き、ケアに役立っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係を把握して、年賀状や暑中見舞いなどを本人に書いて頂き関係が途切れないように努めている。また、補聴器が使われている入居者と、馴染みのメガネ屋さんまで行き電池交換をしてもらう支援等も行っている。 (外部評価) 職員は、利用者に「便りを出したい人」の希望を聞きながら、年2回、写真付きの年賀状や暑中見舞いのはがきを出せるよう支援されている。ご自分で書きにくいような利用者には、職員がご本人の気持ち等を聞きながら代筆されている。お孫さんから毎月はがきが届く方は、ご自分で読んで居室にファイルされ、ご家族にも見ていただけるようにされている。時には、お返事を出されることもある。以前、いきいきサロンで活躍されていた利用者に、メンバーの方達が会いに来てくださることもある。息子さん達と馴染みの場所へドライブされる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、リビングのソファでテレビを観ながらスムーズな会話が出来るよう職員が間に入り関係作りの支援を行っている。また、誕生日にはお祝いの言葉かけやプレゼントを渡して貰うなどその都度工夫している。 慣れた入居者は自分から声をかけ、会話されている光景もみられることが増えている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院後ホームを退居された場合は、お見舞いに伺っている。また適宜ご家族とも連絡をとり相談や経過について何うよう努力している。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや意向の把握については、できる限り個人記録に残すようにしている。また年間のアセスメント表を設け、年間を通して気持ちや行動、職員との会話内容を記録し把握できるように努めている。また、思いがうまく伝えられない入居者に対しては、できる限り確認をして、少しでも思いを伝えられるように配慮している。 (外部評価) 事業所独自で利用者個々に、1年間の状態を一覧できるようなアセスメント表を作成されており、職員はアセスメント表を見ながら個々の思いや意向を掴み、ケアに活かすようにされている。アセスメント表には言動、思い、食事、排泄、移動、入浴、活動、睡眠、医療の項目があり、利用者の変化等も分かるようになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) お手伝いをして人の役に立ちたい人や、外出が好きな人それぞれの希望もお聞きしながら、今までと同じように生活出来るように支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 偏った見方による「出来ない」という情報に捉われず、出来ること、分かることを本人の生活や全体像から把握出来るよう努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 計画作成時に本人より希望を聞いたり、ご家族へは書面でお知らせしたり、面会時、連絡時などに状態報告をしたうえで、希望や心配事を聞いて介護計画を立案している。</p> <p>(外部評価) ご家族へは、職員が記入した事業所独自のアセスメント表を送付して、ご家族の希望を記入してもらうようにされている。ご本人やご家族から聞き取った言葉をそのまま記入されていた。ご本人ご家族の希望を踏まえてスタッフ会で話し合い、介護計画を作成され3ヶ月毎に見直しをされているが、体調変化時や入院、退院の際等、利用者の状態変化時には、その都度見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録にケアプランが記入しており、職員がどのように対応すればよいか分かりやすい。が、口頭で申し送りも出来ていても、記録に残っていない情報が時々見られるため、今後、記録の徹底が必要。また、身体状況が低下した時は看護師と連携を取りながら介護計画の見直しを職員全体で行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居、相談窓口、健康管理、通院や買い物などの外出時の付添等希望に添えるよう、ご家族とも相談しながら柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 年1回、地域の方と防災訓練を行っている。また、昨年度は中学生の体験学習や弾き語りのボランティアを受け入れ、生活を楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科(主治医)歯科、眼科、皮膚科など、受診は職員が付添 い受診結果を家族に報告している。また、24時間対応可能 な医療看護師との連携をとりながら、すぐに適切な医療が受 けられるように支援している。 内科の主治医(真網代)は月に1回訪問診療に来てもらい、 直接入居者さんや職員の話聞いてもらっている。	
			(外部評価) 入居の際には、法人内の病院で診察を受けて入居されてい る。歯科医は訪問診療を利用されたり、治療が必要な時に は、医院で送迎をしてくれるようになっている。眼科はこれま でのかかりつけ医の受診を支援されている。診察の際には職 員が同行されているが、中予等、遠方のかかりつけ医の受診 時は、ご家族が付き添っておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 24時間対応可能な看護師に入居者の少しの変化でも気付 いたらすぐに連絡出来る体制になっている。看護師は医師と 連携し、適切な指示を得られる体制にある。 状態によって、ただちに真網代くじりハビリテーション病院 への受診も可能。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。また は、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報提供書を病院へ届け、定期的にお見舞いし必 要な情報を提供して、状態などの確認を相互にしながら早期 退院に協力している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる	(自己評価) 重度化や終末期について、本人やご家族の気持ちが常に 変わることを想定して、定期的にお気持ちを聞かせていただ く場を作りたい。また、その希望に添えるよう職員もターミナル ケアをスムーズに出来る立場になるよう勉強する場と時間が 欲しい。	
			(外部評価) 「事業所で最期まで過ごしたい」と希望される利用者やご家 族は現在はおられないようで、現在は入院を希望されるご家 族が多いようである。利用者が重度化した場合には、法人の 病院に移行できるよう、つなぐようになっている。管理者は 「法人内のグループホームで看取りを経験されたホームがあ り、その時の様子や取り組みについて話を聞き、今後ご本人 ご家族の希望に沿えるように取り組んでいきたい」と話してお られた。	重度化した場合や最期の過ごし方については、事業所で できることについてご家族等とも話し合い、希望に沿って支援 できる体制を整えていかれてほしい。機会を見ながら利用者 ご本人の思いや意向等も探り、最期までご本人らしく暮らせ るような支援に取り組んでいかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署や、付帯施設の勉強会等で救命救急の講習を受け、緊急時連絡マニュアルを掲示している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に消防訓練を行っている。地域の消防訓練等にも参加し避難場所も確認している。 地域の防災組織にも参加させてもらえるよう、運営推進会議でもお願いし、検討してもらっている。 (外部評価) 5月の運営推進会議時、夜間想定消防・避難訓練をされた。火災通報装置やスプリンクラーの設置に向けて申請をされている。災害時の食料品の備蓄は3日分準備されているが、今後は「非常持ち出し袋の準備」もしていきたいと考えておられた。居室の掃き出し窓から、車いすでの避難方法についても、全職員が身に付けられるように取り組みをすすめる予定であった。職員は「災害時には近所の人達の協力が必要なので、普段からふれあいを大切にしていきたい」と話されていた。区長が地域の自主防災の会長も務めておられ、運営推進会議時に「消火器の管理や手入れ」についてアドバイスをいただいた。	隣接保育所では毎月、自主避難訓練に取り組みされており、事業所も一緒に訓練を行っていきたくておられた。協力し合えるような体制作り等、利用者、職員、ご家族の安心、安全に向けた取り組みを重ねていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 会話は一人一人のペースや口調に合わせて対応している。何かを失敗された時など、不必要な大声を出さないように穏やかに接するように心掛けている。 各居室には暖簾(防災加工)を入口に設置し、室外からの視界を最低限に抑えている。 (外部評価) 居室の入口には、個々に防災加工の「のれん」をかけて、プライバシーに配慮されている。利用者の中には、トイレの扉を開けたまま使用される方もあるが、職員は、静かに扉を閉めるようにされたり、排泄の確認時には、小さな声で確認されている。昼食時、「気にかかることがある」と、食事をされない利用者に管理者は、話を聞いておられ、少し遅れてご本人も食卓に座って食事を始められた。夜間のみ居室でポータブルトイレを利用される場合は、昼間は布を掛けて配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定をせかさずにゆっくりと話を聴くよう心掛けている。声掛けの際は「～ですか?」「～ませんか?」など、意思決定がしやすいような声掛けも心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事の準備や作業等は一人一人のペースで出来る作業をやってもらっている。病院受診、外出等個々の希望を聞いて支援している。また、入浴は本人の希望の時間、準備に合わせて入ってもらっている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日のヒゲ剃り・整髪への支援、外出時には好みの洋服を選べるよう支援している。 散髪業者も8月から、月に1回来てもらおうようにし、女性にも顔剃りをしてもらえるようにした。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には本人に食べたい物、好きな物を事前に聴いて献立を立てている。又、一人一人の能力に応じた手伝い(盛り付け、食器洗い、米とぎ、テーブルお膳拭き)もしてもらっている。	
			(外部評価) 調査訪問時、サンマの塩焼きに沿える大根おろしを利用者が作っておられた。炊き込みご飯の具の里芋やしめじの下ごしらえをされたり、酢の物のキュウリを切ったり、みそ汁の具を切ったりされていた。職員も一緒に同じものを食べておられ、利用者一人ひとりの食べ方に合わせて小さく切ったり、食器を置き換え支援されていた。又、ご飯のお代わりやお茶のお代わりを勤めておられた。事業所では3ヶ月間、業者から食材を取ることを試みておられたが、冷凍の食材が多く、利用者から「おいしくない」との声が多くあり、10月より新鮮な食材を使った食事作りができるようにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量、水分量を記録し日々の変化が分かるようにしている。摂取量の少ない方には、おやつ時やそれ以外の時ににも提供したり、温かいもの冷たいもの、お茶以外の飲み物なども選んでもらえるようにしている。7月より食材を業者に注文しているので栄養バランス、カロリー、塩分等は把握していたが、新鮮な魚や野菜の食材が少ないため、10月より以前の通りの献立・食材発注に戻している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き、義歯洗浄を行っている。出来るだけ自分でしてもらうように声かけ・見守りを行っているが、仕上げ磨きは補助している。義歯を使用している方は毎晩ボリデントで洗浄除菌をする等、日常的に支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その人その人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援を行っている。又、自力でトイレに行けない方は定期的もしくは時間や状態をみて声掛けしP-トイレで排泄援助をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの状態をみて、トイレ誘導されたり、昼間でも居室のポータブルトイレを利用される方もある。退院時におむつを使用していた利用者の方もあったが、ポータブルトイレ等も利用しながら、現在はパットを使用してトイレで排泄できるよう改善した事例もある。</p>	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日、便の有無をチェックし、自然排便を促すよう食事、毎朝の牛乳摂取、こまめな水分補給に心掛けている。毎日ラジオ体操をし身体を動かす支援も行っている。歯磨き時の立位やトイレへの移動時など、ちょっとした活動もできるよう援助している。</p>	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴の声掛けをしながら毎日支援を行っている。時間を指定される方には希望の時間に入浴してもらっている。入浴を拒否された場合は無理強いせず気分転換を図ったり、他の職員が声掛けしたりして工夫しながら行っている。入浴できない場合は、体調や状態に合わせて清拭を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎日入浴される方や、2～3日に1回入る方等、利用者の希望や状態に合わせて入浴を支援されている。入浴を嫌がるような方には「お手伝いしてもらえませんか？」と声をかけて浴室にお誘いすることもある。浴室、浴槽が広いので、早めに熱めのお湯を入れておき、入浴の際にはシャワーで浴室全体を暖めるようにされている。浴室にはボディーソープを置いておられるが、皮膚が弱い方等には固形石けんを使っておられる。</p>	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その日の体調等を本人にも確認し、起床時間を遅めにしたり、日中自床で休んでもらったりしている。日中は作業などに参加してもらい夜間安眠できるよう働きかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬内容は職員全員が理解出来るよう目につく場所にファイルに保管している。又、個々の薬手帳があり確認している。服薬は目視して確認している。内服薬に変更があった場合は、申し送りを行い、内服薬の影響の有無を確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人その人の、できる事を役割として洗濯物たたみ、新聞折り、米とぎなどしてもらっている。午前中に託児所の子供達が外で遊んでいる時に遊びに行き、交流している。また、季節行事を託児所と合同で行い、楽しんでいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や外出の希望があれば、できるだけ援助している。季節に応じて年に数回、全員で外出するようにしている。ご家族が月に数回、ドライブに出かけられる入居者もおられる。職員が用事で出かける時にも、一緒に車に乗って出掛けることがある。 (外部評価) 調査訪問時、隣接の保育園の園児が遊んでいる姿を眺めながら、お茶を楽しんでおられる利用者の様子がうかがえた。近くには、ミカン畑も多く、色付き始めたミカンを見ながら散歩されたり、季節ごとにお花見やイチゴ狩り・紅葉狩りにも出かけておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物をした際、お金を支払う機会をつくっている。本人でお金を持っておられる方もおられ、必要時にレシートを渡し、代金を支払ってもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば使用してもらっている。年賀状、暑中見舞い、御礼のハガキなど、ご家族やご兄弟などに毎年書いている。書けない方には、話をしながら代筆して支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>常に清潔感を保ち温度調節に配慮している。玄関やリビングには四季折々の花を飾って居心地良く過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前のプランターには菊の花が咲いていた。又、玄関にコスモスが生けてあり、利用者が季節を感じることができるようになっていた。「まり子ちゃん」と呼ばれているお人形を利用者は大切にされており、テレビの前のソファに座らせていた。壁には、地元の中学生からもらった花の絵の色紙や行事の際の写真、産休中の職員の赤ちゃんの写真等も飾っておられた。地区の「公民館便り」が掲示されており、話のきっかけになっている。ソファを配して、利用者がお好きな場所で居られるようにされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファで新聞を読んだり、TVを観ながら入居者同士で、お茶を飲み談話を楽しんでいる。離れたソファもあるので、それぞれに離れて座って過ごされていることも多い。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の写真や使い慣れた時計やタンス等、馴染みの物を居室に持ち込んでもらい本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また行事の写真や、面会時などの写真も飾るようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、使い慣れた洋服ダンスや椅子・時計、手鏡、衝立が置かれていた。衣装ケースやテレビ、冷蔵庫等を持ち込んでおられる方もいる。家族写真や誕生日に利用者の方から頂いた毛筆のお祝いの言葉、毎年の初詣時に引くおみくじを大切に取っている方もいた。今年の敬老の日に、隣の保育園の園児からプレゼントされた「レター受け」や「首飾り」を利用者は大切に飾っておられ、はがきを入れて利用されている方も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレの場所が、わかるように「便所」と貼り紙を貼ったり居室には名札をかけたり、わかりやすいよう配慮している。又、一人一人持っている力を引き出すよう支援している。テーブルの高さも2通り用意し、食べやすい高さで食事できるようにしている。</p>	